

# ふくおが

4月



『牛乳で乾杯!』

組合トピックス	1~12	職員日記	15~16
MOMOステーション	13	色々問答	17~18
診療所日記	14		

# 令和七年度生乳需給安定化 対策実施規程を決定

三月二十八日の理事会において、令和七年度生乳需給安定化対策実施規程が決定されました。

令和六年度の組合の生乳生産は、生乳出荷戸数一四六戸、組合員積み上げ方式により組合員の生乳出荷目標数量五九、七二十四ト（前年出荷実績比九十九・九％）でスタートしました。

しかしながら、ここ数年の飼料・資材価格等の高止まりや、昨年十一月に国内で初めて発生が確認されたランピースキン病の影響により生乳の廃棄、子牛の出荷自粛による滞留問題などの先行き不透明な状況が続いていたため、生乳生産実績は五七、七八十ト（前年出荷実績比九十六・七％）と前年を大きく落ち込みまし

た。

高齢化に加え、生産資材およびエネルギー価格の高騰等を背景に、酪農家戸数の減少率は高止まりしており、生産基盤の弱体化が懸念されるなか、改正食料・農業・農村基本法では、食料安全保障が基本理念の柱として位置づけられ、生乳生産基盤の維持・強化が求められています。一方、飲用需要期のひっ迫や不需要期の瞬間的な緩和などの季節的な要因の他にも、価格改定による生乳需要への影響や指定団体外流通の動向などが生乳需給上の課題として生じることが想定されます。

九州生乳販連では、生乳需要の見通しが不透明である状況を踏まえ、三年間を単位とする中期対策は設定せず、令

和七年度は単年度での「生産者積み上げ型」の需給安定化対策要領を設定されました。

このことから、組合では、組合員の計画的な生乳生産及び維持的な経営安定に資するため「生産者積み上げ型」の生乳需給対策の規程とし、供給責任の明確化と目標数量達成を目的とした規程とします。令和七年度の組合の規程の概要については以下のとおりです。

## 一、「生乳委託契約数量」

組合員は、令和七年度委託計画等に係る確認事項と合わせて、令和七年度生乳委託計画数量を組合へ提出する。

## 二、生乳出荷目標数量

組合員は、生乳委託計画数量及び令和七年度の分娩頭数等を勘案し、年間の月別生乳出荷計画書を作成して、組合へ報告する（六月）

## 三、出荷目標数量の変更

個人別の出荷目標数量の

変更は、九月・十一月理事会で実施。

九月に取り纏めた数量を修正目標数量、令和八年一月に取り纏めた数量を最終目標数量とする。

## 四、生乳出荷目標数量の達成方法

中長期的な観点から生産基盤を維持するための取り組みについては、補助事業等を活用し生乳出荷目標数量の達成に取り組む。

## 五、季節別乳価及び差額金の精算

調整率支払の差額金は、六月～十一月の受託乳量をもとに年度末に精算する。

## 六、その他

九州生乳販連が定める生産者乳価対策実施要領に基づき、生産者乳価対策資金（四十銭）を拠出し、生乳需給安定化対策（脱脂粉乳在庫対策）、理解醸成及び消費拡大対策に取り組む。

(季節別乳価調整率)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調整率%	94	94	100	110	110	114	105	100	93	93	93	93

# 乳質改善対策委員長会(ウェブ開催)・乳質改善協議会開催

消費者から信頼される生乳の生産を目指し、令和七年度の乳質改善推進対策について、三月五日に各支所の乳質改善対策委員長・副委員長に参集頂き乳質改善対策委員長会(ウェブ開催)、三月十三日には、乳質改善参与会を開催し協議を行いました。また、三月二十八日に、乳質改善協議会を県の関係機関、乳業者等に参集頂き開催し、令和七年度の乳質改善対策を決定いたしました。

令和七年度も乳質自主規制の変更はせず、ポジティブリストに関する記帳・記録・保管の徹底による生乳の安全・安心の取り組み、牛舎環境・飼養管理改善、ゲノム解析を利用した乳牛改良の推進、バルク等の点検推進等を実施していきます。

また、昨年十一月に国内で初

めて発生が確認されたランピースキン病については、一月二十二日を最後に確認されておりませんが、本病の発生には、サシバエによる伝播の可能性が高いとされています。そのため、幼虫、成虫対策(IGR製剤、殺虫剤散布など)を徹底して頂きますようお願いいたします。



# 組合員全農場に吸血昆虫対策としてI・G・R製剤を散布 ランピースキン病まん延防止対策

組合では、三月十二日より三月末にかけて福岡県及び全酪連福岡支所の協力をいただき、組合員全農場を対象にI・G・R製剤(幼虫成長制御剤)を散布しました。

これは、ランピースキン病が主に吸血昆虫を介在して伝播すると言われていることから、行ったもので、現時点では県内に発症牛はいないものの、気温上昇前に効果的にサシバエを減らし、病気の再発生のリスクを減らすことからのことから実施しました。

散布したI・G・R製剤は組合及び全酪連福岡支所が準備し、組合、福岡県、全酪連福岡支所の職員が、組合員へ散

布継続のお願いをしながら、牛舎内及び周辺への散布を行いました。

昨年十一月に福岡県において国内で初めて発生が確認されたランピースキン病、三月四日には農水省より対米輸出停止措置解除の朗報があり、県外の家畜市場への出荷自粛がほぼなくなった状況ではありますが、このことを継続させるためにも新たに発生させないことが重要となりますので、まん延防止対策への組合員の皆様のご協力をよろしく申し上げます。



# 牛乳消費拡大活動「ミルク祭」開催

令和七年三月一日、二日春日市のアクロスモール春日にて消費拡大活動「ミルク祭」を開催しました。イベントでは「乳搾り体験」「哺乳体験」「バター作り体験」「ぬりえ」に加え、酪農や牛乳製品により興味・関心を持っていただけるよう新たに各県の牛乳を味わって頂く「九州の牛乳の飲み比べ体験」、牛乳からできるものやバターとマーガリンの違いなどを味わってもらう「乳製品の世界」を実施し、多くの人で賑わいました。販売コーナーでは福岡県をはじめ九州各県産の牛乳、乳製品の販売を行い牛乳の美味しさ、魅力をアピールし消費拡大を図りました。

## 牛乳で乾杯



九州の牛乳の飲み比べ体験、牛乳からできるものやバターとマーガリンの違いなどを味わってもらう「乳製品の世界」を実施し、多くの人で賑わいました。販売コーナーでは福岡県をはじめ九州各県産の牛乳、乳製品の販売を行い牛乳の美味しさ、魅力をアピールし消費拡大を図りました。

## 乳搾り体験



## 牛乳飲み比べ



## 牛乳の世界



## ぬり絵



## バター作り体験



# 牛乳消費拡大活動「HAKATA飲モ〜飲モ〜フェスティバル〜」開催

令和七年三月二十二日ふくおか県

酪本所駐車場にて消費拡大活動「HAKATA飲モ〜飲モ〜フェスティバル〜」を開催しました。イベントでは「乳搾り体験」「哺乳体験」「バター作り体験」「ぬりえ」「九州の牛乳の飲み比べ体験」「乳製品の世界」を実施し多くの人で賑わいました。販売コーナーでは九州各県産の牛乳、乳製品の販売を行い牛乳の美味しさをPRし消費拡大を図りました。また体験イベントには組合員も参加していただき、生産者と消費者の交流も図れました。

その他、酪農家さんや牛乳への応援メッセージコーナーも設け、多くの人から温かいメッセージを頂きました。今後も牛乳の大切さ、美味しさをアピールし、牛乳、乳製品を応援して頂けるような消費拡大活動を行っていきます。

## 応援メッセージ



乳搾り体験



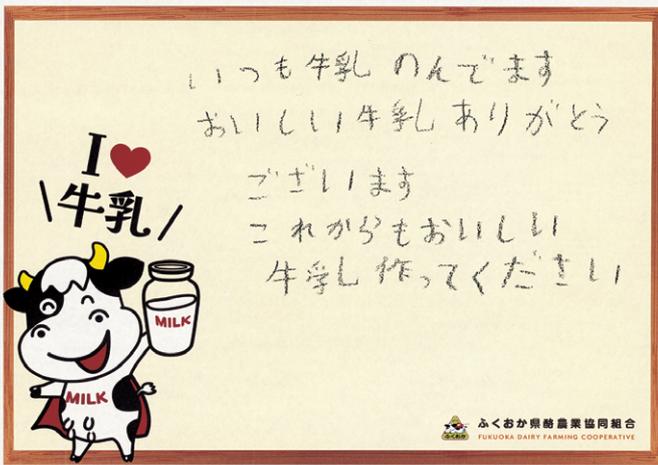
牛乳飲み比べ



めり絵



バター作り体験



ありがとう  
酪農家さん

グワグワは...  
飲みな...けれと...  
I ♥ 牛乳  
乳製品は...  
大好きです  
毎日たべたいので おいしい乳製品  
よろしくお願ひします

ふくおか県酪農協同組合  
FUKUOKA DAIRY FARMING COOPERATIVE

いつも牛乳に...を...してくれてありがとうございます。

I ♥ 牛乳

ふくおか県酪農協同組合  
FUKUOKA DAIRY FARMING COOPERATIVE

いつも牛に...を作ってくれて

I ♥ 牛乳

ありがとうございます  
これからも作ってくださいね  
たくさん牛乳をのみます。

ふくおか県酪農協同組合  
FUKUOKA DAIRY FARMING COOPERATIVE

ぎゅうに...をつくってくれて  
ありがとう

I ♥ 牛乳

ふくおか県酪農協同組合  
FUKUOKA DAIRY FARMING COOPERATIVE

I ♥ 牛乳

牛さん、酪農家さん  
おいしい牛乳を いつも  
ありがとう ♥ さくらこ  
あかりこ

ふくおか県酪農協同組合  
FUKUOKA DAIRY FARMING COOPERATIVE

I ♥ 牛乳

ぎゅうに...  
を作っている人たちがわたしたちのため  
に、ぎゅうに...をつくらせていただいて  
ありがとうございます。ゴクゴクおい  
しくいただきます。

ふくおか県酪農協同組合  
FUKUOKA DAIRY FARMING COOPERATIVE

I ♥ 牛乳

3人家族で、多いとき1日  
牛乳を飲んでいます

いつも  
ありがとう  
ございます

ふくおか県酪農協同組合  
FUKUOKA DAIRY FARMING COOPERATIVE

I ♥ 牛乳

毎日おいしい牛乳をありがとうござ  
います。

ふくおか県酪農協同組合  
FUKUOKA DAIRY FARMING COOPERATIVE

I♥牛乳

いつもありがとう  
おいしいわよ

ふくおか県酪農協同組合  
FUKUOKA DAIRY FARMING COOPERATIVE

I♥牛乳

夜泣きしたと思ったら  
「牛乳!」とせがまれています。  
いつも美味しく頂いています。  
ありがとうございます。

ふくおか県酪農協同組合  
FUKUOKA DAIRY FARMING COOPERATIVE

I♥牛乳

ぎやうにやうやさんへ  
いつもぎやうにやうのんごよ  
バターとぎやうにやうを  
スーパーにおくたを  
おがとろおしごとがんはがて

ふくおか県酪農協同組合  
FUKUOKA DAIRY FARMING COOPERATIVE

I♥牛乳

牛乳で強く元気に  
育っています

いつも  
ありがとう  
ございます

ふくおか県酪農協同組合  
FUKUOKA DAIRY FARMING COOPERATIVE

I♥牛乳

牛乳大好き!!  
はると

ふくおか県酪農協同組合  
FUKUOKA DAIRY FARMING COOPERATIVE

I♥牛乳

牛乳をたく  
かてまりがせけん  
乳はけし

ふくおか県酪農協同組合  
FUKUOKA DAIRY FARMING COOPERATIVE



# 博多駅前広場消費拡大活動開催

令和七年二月一日、二日の二日間博多駅前広場にて「博多和牛フェア×ふくおかごちそうマルシェ」が開催され、ふくおか県酪も参加し、県酪オリジナル乳製品や牛乳・ヨーグルトなどの販売を行いました。博多駅ということもあり、県外からの来場者も多く、広く福岡県産の牛乳、乳製品の美味しさ・魅力を伝えることができました。今後も福岡の牛乳の美味しさをPRし、福岡県産の牛乳・乳製品を応援していただけるよう消費拡大活動を行います。



# 「フードバンク福岡」へ九州生まれの牛乳（L・L牛乳）を無償提供しました

組合では三月二十二日に社会貢献活動の一環として、「フードバンク福岡」（福岡市城南区友泉亭）へ九州生まれの牛乳（L・L牛乳）を無償提供しました。

この取り組みは、九州生乳販連が事業を活用して音頭を取り、九州各県の酪農団体が連携して行ったもので、牛乳は、九州産の生乳を使用した「九州生まれの牛乳」（L・L牛乳）を用いました。酪農家も苦しい状況にはあるものの、「お互い様」の気持ちを忘れず、新鮮な九州産の牛乳を飲んで元気になろうとの想いを込めて贈呈させていただき、フードバンク福岡の担

当者も「生活に困っておられる方は思いのほか多く、牛乳という、栄養価が高くおいしい生鮮食料品は、非常にありがたい。有意義に配布させていただきます。と喜ばれ、牛乳の素晴らしさを再認識させられました。



# 第三十八回ふくおか県酪農青年女性酪農発表大会開催

去る三月二十六日(水)、筑紫野市生涯学習センターにてふくおか県酪農青年女性会議主催「第三十八回ふくおか県酪農青年女性酪農発表大会」が開催されました。

今回は、酪農経営発表に久留米支所の平田卓氏より「基本に忠実に継続は力なり」、意見体験発表に飯塚支所の江藤健太郎氏より「Circle of Dairy」と題して、発表していただきました。

その後、乳牛診療人工授精所の蔣野あかり人工授精師より「夏場の受胎戦略！ ～猛暑気こそ新鮮ETを～」と題して講演いただきました。

暑熱ストレスがAI受胎率を低下させる理由、事例を通じた新鮮ETの強みなどについて、繁殖成績の向上に有益なお話をいただきました。

経営発表 平田卓氏



意見体験発表 江藤健太郎氏



蔣野あかり人工授精師講演





# 頑張る

未来の

# 酪農家紹介

福岡支所

波多江牧場

波多江浩一氏

## プロフィール紹介

十九歳から就農し、二十四年になります。周囲の酪農家の方々の影響で自然と後継ぎの道を選びました。糸島農業高校を卒業して、北海道農業専門学校 八紘学園で酪農の勉強をしました。

家族構成は父、妻、子ども三人。牛舎の作業は父と私が全般を、妻は哺乳や私が不在の際は搾乳もしてもらっています。

## 現在の飼養頭数

経産牛九十頭、育成牛五十頭弱。

## 現状の問題点と今後の課題

今後、父も作業が出来なくなる年齢になるので、一番は「従業員の確保」が大事だ

と考えています。規模拡大出

来ており、授精状況も悪くなく、頭数・乳量も維持出来ているので、「雇用」が重要だと思えます。長く働いてもらえる従業員が見つければ、楽に作業が出来ると考えています。子供たちに継いで欲しいという思いはないですが、本人達が継ぎたいと言えば、サポートしてあげたいと考えています。



## 飯塚支所酪農青年部

## 牛乳消費拡大活動

飯塚支所青年部が、令和七年二月十三日(木)午前十時三十分より嘉麻市内の「嘉穂ライム保育園」にて牛乳消費拡大運動を行いました。

ホルスタインの大きさ、牛の食べる量、牛乳の出るしくみ等々園児たちは興味津々で大騒ぎでした。

今から「この牛さんから搾った牛乳でバターをつくりまーす。」の掛け声で子供たちは、バターを食したい一心で一先懸命容器を振り大きな声でバターになーれ!!バターになーれ!!と叫びやっと完成!!

完成したバターをクラッカーに塗って、挟んでサンドイッチ、中にはゴドイッチにして食べる子もいました。

終わりに、グッズと試飲牛乳を手渡し「牛乳をたくさん飲んで大きくなって下さい!!」との掛け声に「ハイ!!」の返事で終了しました。



# 診療所日記

ふくおか県酪獣医 横山 生

お世話になっております、ふくおか県酪に入って1年となる獣医師の横山です。力不足ながら、いつも対応していただいている農家さんには頭が上がりません。これからも皆様のお役に立てるよう、努力してまいります。

さて、この診療所日記を書くにあたり、内容をどうしようと1か月ほど悩んでおりました。一年目の私が、牛の大先輩である農家さんに意見するなど大変おこがましい上に、知識の全くない私ですが、診療していて、ここは農家さんと認識を共有したほうがいい！と思った、傷(特に関節炎)、下痢の治療について書かせていただきます。

## ◆ 傷の治療

傷の治療はとにかく「洗う」ことが重要です。また、できてすぐの傷なら針で縫い、ある程度時間をおいたものなら、洗って、湿潤環境にする(ワセリンを塗る等)というのが現代の医療の正解になっています。人のお医者さんでは、とにかく洗って、ラップで傷口をまく方もいらっしゃるそうです。絆創膏は、乾いているのであまり効果が期待できません。これは、牛の関節炎などの治療で活かされており、関節炎は時に膿が大量に貯まり、洗うのも困難な状況に陥っている牛も見られますが、できる限り根こそぎ膿を生食(水道水でも可)で出し切り、湿潤環境にします。症例によっては1か月、2カ月(2カ月はさすがに予後不良になるケースがほとんどですが…)ほど治療までに時間がかかりますが、確実に治すには我慢が必要です。

## ◆ 下痢

今年はランピースキン病の影響を受け、仔牛の滞留、そして仔牛の病気に悩まされたのではないのでしょうか。診療する身からしても、たくさん点滴した記憶があります。下痢治療は原因を探ること、そしてその病原体(消化不良の場合もあります)に対して適切な治療をすることが大切です。どの種類の下痢でも治療方針としては、抗生剤+生菌剤や消化を助ける粉剤の団子がいいのではないかと考えています。ビオスリーやビオペアで団子を作って仔牛の上顎に塗り付けてやると、しっかり舐め切ってくれます(おいしいのでしょうか???)。ミルクに混ぜるのもいいですが、団子の方が発展途上の一胃にもおなかにいい菌が入りますので、おすすめです。

また、ミルクを飲ませる哺乳瓶の乳首も確認するのがよいと思います。適切な乳首でちびちび哺乳をさせることで唾液(消化液たっぷり)が出て、消化不良を起こしにくくなります。乳首の先端が広がって、勢いよくミルクが出るようになると、唾液も出ず、誤嚥を起こしやすく、さらには仔牛の乳首吸いたい欲が満たされません。これは、病原体がついた柵をなめたり、何頭かで一緒に飼っている場合にはお互いの乳首をなめあった結果、初産牛で乳房炎を引き起こすことにもつながります。

拙い文章の上に、内容の薄いものですが参考にしていただければ幸いです。

# 職員日記

酪農部 井上 高明



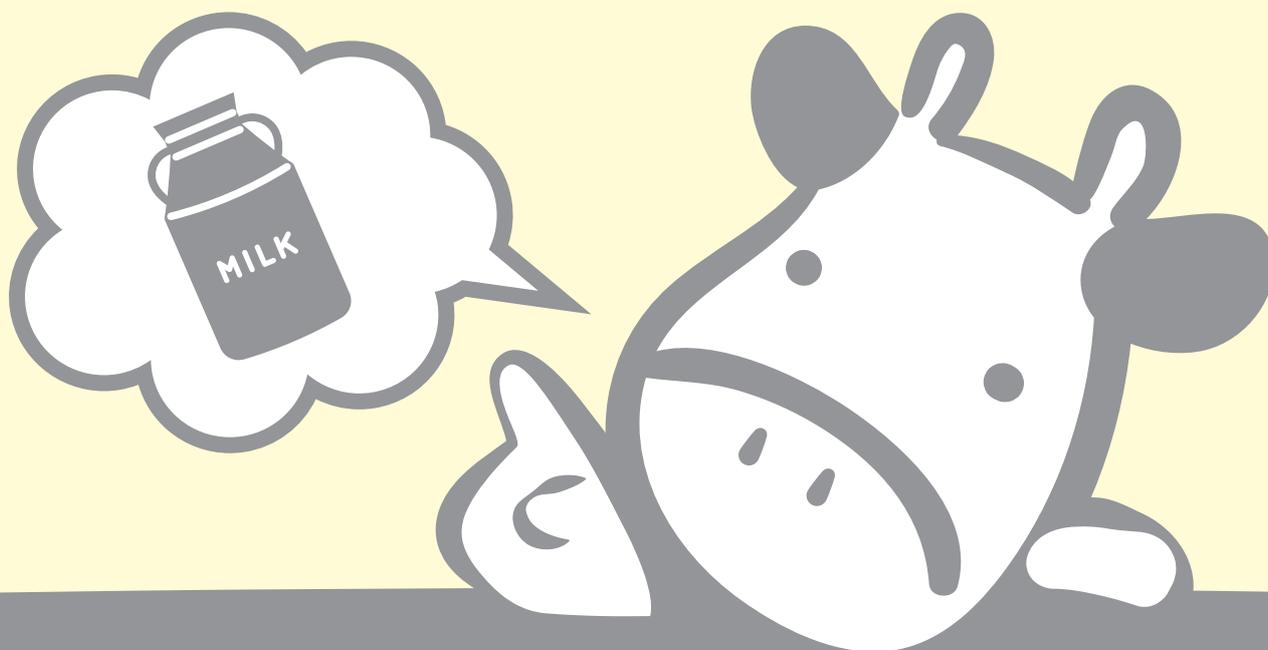
組合員の皆様方、はじめまして、本会報誌『みるく情報 ぶくおか』の編集担当を務めております。さて本年度より『職員日記』を始動致します。主旨としましては、組合員の皆様方に、より多くの当職員を知って頂こう！というものでありまして、また前年度まで実施しておりました『専任指導員日記』、『支所長日記』では記事の執筆者が偏ってしまうという問題もあった為、その改良版としての意味合いもございます。これにより、本所職員はもとより、当該支所以外の支所職員を知る事が出来る良い機会になればと考えております。先ずは難しく考えずに『自己紹介』といった具合で、本人の担当している業務の説明や職務に対する意気込み、本人がOKであればプライベート部分(趣味など)等も交えながら執筆して頂く予定です。

初稿としまして拙筆ではありますが私が執筆を務めます。先ず当組合における私自身の略歴としましては、本所勤務のみとなり支所勤務の経験はありません。故に、それなりに当組合に勤めておりますが、緊急当番等で牧場に赴くと、「新顔か？」と言われることがたまに有ります(汗)。本所では2部署しかない管理部と酪農部を行ったり来たりを繰り返しており、管理部では初期はパソコンや公用車等の施設管理を担当、後期は加えて給与計算や各種保険を主とした労務管理を担当し、酪農部では初期は県・国の補助事業の取り纏めや申請業務・会計検査対応、後期は加えて検定・ヘルパーの事務局を担当しておりました。それで現在とはいうと、雑多の担当業務を兼任しながら企画指導の次長という管理職に1年ほど身を置いている次第です。今までの担当という立場とは違い、自身が担当してこなかった業務も把握する必要がある為、管理範囲内の担当者に教えを請い、浅い知識ながらも出来る限り理解していくよう努めたいと考えております。また業務担当者とのコミュニケーションを図りながら、業務効率化・省力化を進める事が出来たら良いなとも考えております。組合員減少による組合規模縮小の対応課題として業務効率化・省力化は避けられない事と捉えている

為、組合員の皆様方にもご理解頂けますと幸いです。どうぞ宜しくお願い致します。

次に、趣味は持ち合わせていないのですが日課としてウォーキングを心掛けております。とりあえず1日1万歩以上を目標としておりまして、昨年度の結果としましては、年間総歩数500万歩(約1万6千歩/日)を達成しました(右上の健康組合のヘルスアプリ画面参照)。ウォーキングの効果として、あくまでも個人の感想ですが・・・①運動不足解消による適正体重の維持(ダイエット)②セロトニン分泌によるストレス発散③風邪や花粉症になり難い・・・といった事が感じられました。また副産物としてはスマホアプリのポイ活によりAmazonギフトカードやドリンクチケットを入手する事が出来ます。ウォーキングはデメリットが少なく元手も掛からないので、お気軽健康法としてオススメです。ただ張り切りすぎると、膝を痛めたり、転んで肩を痛めたりする危険性もありますので無理のない範囲で行うのが望ましいと思っています。

最後に、次回の執筆は波多江参事が務めますので、乞うご期待下さいませ。ちなみに執筆者は、前執筆者の指名制(既執筆者以外)ですので波多江参事が次回執筆者に誰を指名されるかも楽しみにして下さい。



## 我が国の酪農の歴史

今回は大雑把ですが、日本の酪農の歴史について書いてみました。

### 1. 古代の酪農

日本で酪農が初めて記述されているのは、奈良時代とのことです。仏教が伝来してわが国ではこの教義を守り、明治に入るまで千年以上もの間、牛・ニワトリの殺生を禁じてきましたが、牛乳は、殺生しない牛から搾ることができ、奈良時代にはすでに宮中を中心に蘇や醍醐(チーズのようなもの)として食べられていました。奈良時代から平安時代にかけて宮中を中心に滋養強壮剤として食されていました。朝廷の勢力衰退と共に飲食習慣は廃れました。武士の時代になって以来、江戸時代まで約600年間、農家の自家消費はあったかもしれませんが、日本では、搾乳はもちろん、牛乳が飲まれたという記録はないようです。

### 2. 近代の酪農

徳川八代将軍吉宗の時にインドから千葉県嶺岡に白牛を入れて細々と搾乳していましたが、事業としての酪農は幕末からでした。外国人や富裕層向けに乳牛を輸入し、牛乳を販売して少しずつ根付いていったようです。明治時代の酪農家は、牛が高額(一頭の値段は田んぼ一枚分)であったことから、裕福なところで



しか飼えず、名士の家が多かったようです。酪農は、このように社会的地位の高い人達からスタートしていったそうです。一方、明治政府の政策で、明治中期から北海道開拓に酪農が取り入れられて、北海道の酪農基盤ができていったようです。しかし、この頃はまだ飲用の習慣は定着しておらず、練乳に加工されたものが流通しており、滋養強壮的な食べ物として位置付けられていました。また、大正時代に入りバターに加工されて流通量が増加していき、一般の家庭にも乳製品は普及していきました。しかし、関東大震災後、米国から救援物資として練乳が大量に入ってきて、その後、食料に関連する関税が撤廃されたため、輸入の安い乳製品が急増していきます。各地の練乳製造会社は、製品が売れないため、牛乳の加工は低迷して

乳価は下がっていき、牛乳を引き取ってもらえない酪農家は、廃業が相次ぎ、厳しい状況に追い込まれたようですが、その苦しさにも耐えて徐々に回復し、酪農は産業として生き残っていきます。この時期に酪農協同組合の前身である組織が各地で設立され、自ら集乳や加工会社を立ち上げ、販売まで行うなどして、相互扶助の気運が高まり、酪農家同士が手を取り合って、励まし合い凌いだと言われていました。

その後、昭和初期から第一次世界大戦後には乳牛頭数も増加していき、牛乳は、滋養に富んだ栄養食品として認められ、日常的に消費されるようになり、飲用牛乳を始め乳製品は栄養価の高い食品として普及していきました。

### 3. 戦後の酪農発展

昭和に入って徐々に発展してきた酪農は、太平洋戦争後の食糧難と食料生産拡大の政策を受け、農業の拡大と共に一気に増加していきます。酪農家戸数は、1963年には42万戸にまで拡大しましたが、その後、様々な事象により規模拡大と専門化が進み、現在は1万戸弱になっています。生乳生産量も、1996年に866万トンにまで達しましたが、その後減少して現在は746万トンとなっています。一戸当たりの飼養頭数は、1～2頭規模からスタートした戦後から現在まで拡大し続けています。また、牛乳・乳製品の需要も、人口増加とともに急速に伸びましたが、この30年間は、生乳換算で1,150～1,200万トンで安定して推移しています。

海外の酪農は、古代から現代まで何千年もの間、営々と営まれてきましたが、わが国は稲作中心の農耕の歴史があり、日本での酪農の発展は、ごく最近のことで世界のような長い歴史はありません。しかし、その技術はいまや長い歴史のある国々を追い越す勢いで急速に発展しています。生産技術だけでなく、衛生的品質も世界トップクラスの乳質を保っています。短期間でこれだけ技術発展し、高品質生乳の生産ができるまでに至るということは、驚異的なことで、わが国の酪農に携わっている方々の努力に敬意を表したいと思います。

### 4. 酪農・牛乳の未来

牛乳生産量は、世界的に消費が伸びており、今や9億5千万トンを超える量になったと言われていています。2000年に5億トンに届かなかったことから、急速に拡大していることがわかります。特に、新興国での需要拡大が続いており、この需要に供給が追いついていないことから、今や牛乳は世界中で不足しているといえます。乳製品の国際価格は上昇を続け、わが国の輸入乳製品価格も上がり続けています。世界の乳価も、上昇傾向にあります。日本の乳価上昇率は世界においていわれています。いずれ追いつくと思われそうですが、生乳販連の頑張りに期待したいところです。

「ランドセル

色とりどり

春が来た」

「わたしたち

ミルクの力

感謝を」

新生ライオン



I. 退職(令和7年1月31日付)

氏名	適用	旧所属
小金丸陽菜	依願退職	乳牛診療人工授精所

II. 退職(令和7年3月31日付)

氏名	適用	旧所属
梶嶋 茜	依願退職	乳牛診療人工授精所
渡邊 哲史	依願退職	酪農部
執行 宏	嘱託契約満了	久留米支所県南飼料倉庫

III. 異動等(令和7年4月1日付)

氏名	新所属・職階級		旧所属・職階級	
早川 幸佑	主事	福岡支所	主事	久留米支所

新入社員自己紹介



坂口 巧

昨年十二月から入組いたしました、酪農部の坂口巧と申します。

以前から酪農に対して興味を持っており、今回縁があり当組合に入組させていただきました。まだ酪農の仕事に関して日が進むにつれて、右も左もわかっていない状態ではあります。自身が生まれ育った福岡に微力ながらも力になれるように頑張っていきます。



藤川 綾乃

初めまして、今年一月に入組いたしました本所酪農部の藤川綾乃と申します。

大学では畜産について学び、前職では肉牛の牧場で子牛の管理や人工授精をしておりました。地元である福岡で、酪農・畜産に携われることを嬉しく思っております。至らない点も多々あるとは思いますが、皆様のお役に立てるよう精一杯努めて参ります。ご指導のほどよろしくお願いいたします。

酪農共済給付金のご請求、忘れていませんか??

ちょっとしたケガで病院に行ったことはありませんか? 事故や病気にあわれたらお気軽にご相談ください。また、「ハイメディカルスーパー」ご加入者については、白内障手術や大腸ポリープ切除手術等、病氣日帰り手術の見舞金一律1万円給付されます。お問い合わせは各支所まで。



例

